

若年層の自殺の状況について

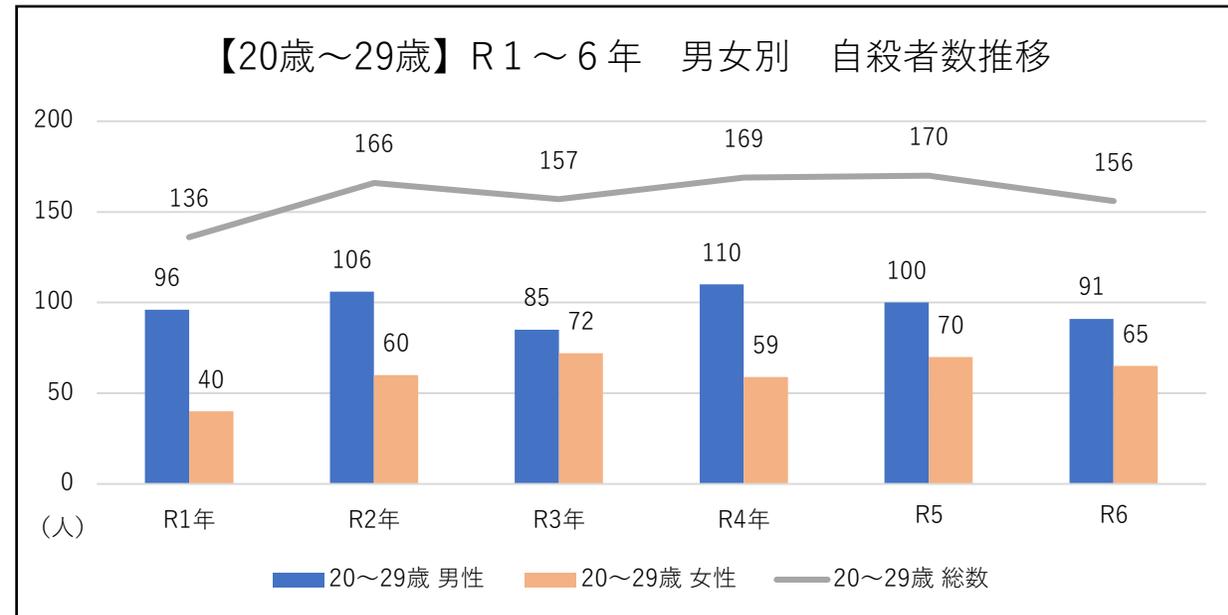
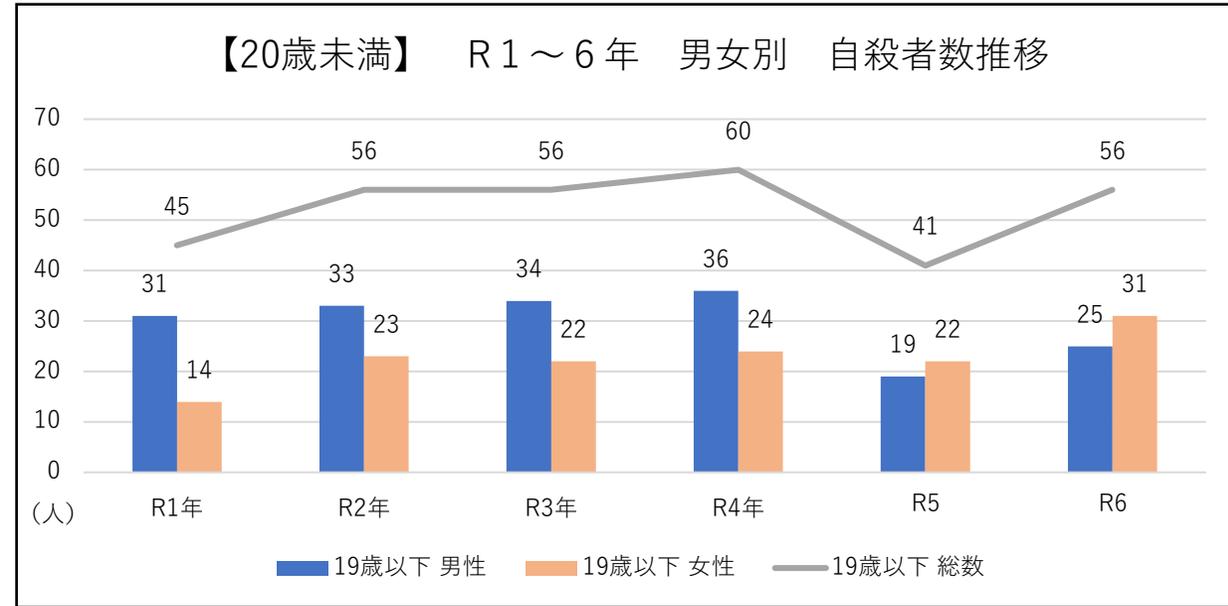
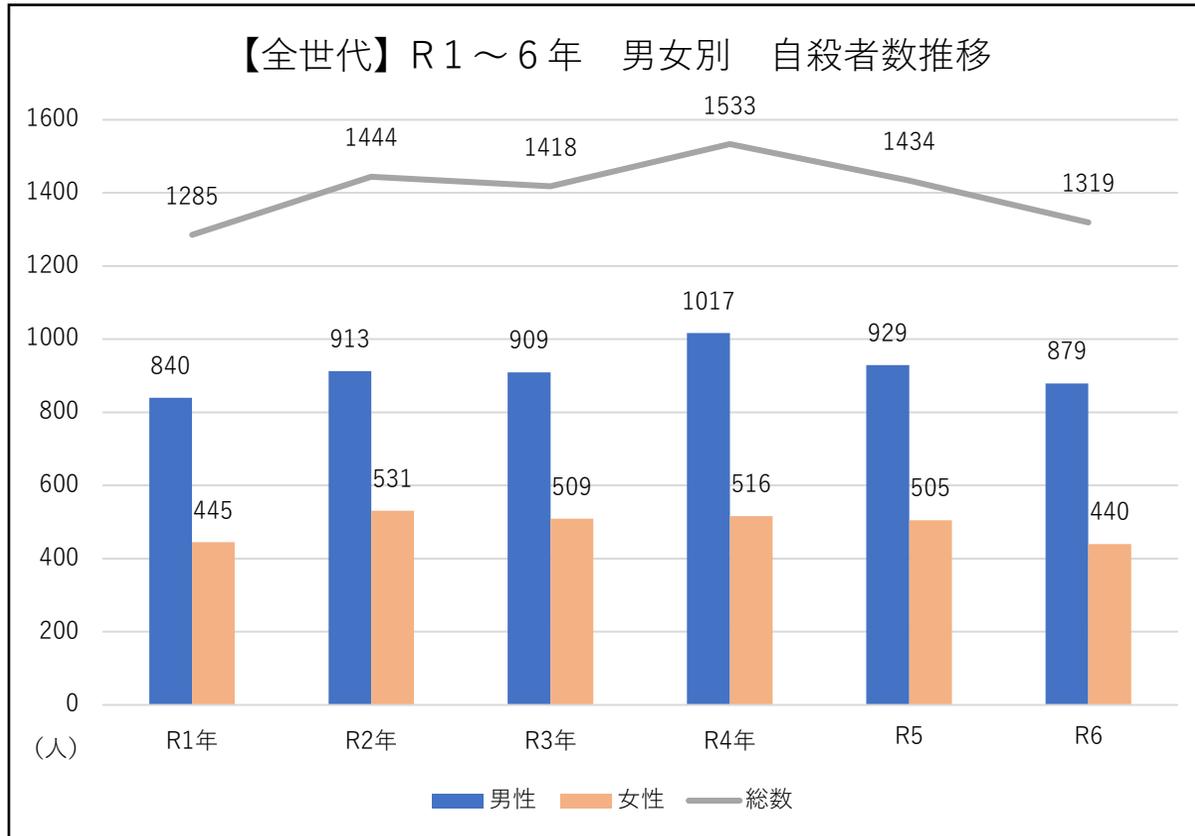
R1～6年の状況

警察庁自殺統計原票データを厚生労働省自殺対策推進室において特別集計した資料を基に作成（特別集計・発見日住居地）より大阪府が作成
※本資料において、29歳以下を「若年層」としている

- R4年1月に自殺統計原票が見直され、原因・動機の既存項目の選択肢が拡充。
- R3年までは、遺言等の生前の言動を裏付ける資料がある場合に限り、自殺者一人につき3つまで計上可能としていたが、R4年からは、家族等の証言から考えうる場合も含め、自殺者一人につき4つまで計上可能とした。
- 交際問題（男女問題）について、R3年までは「男女問題」、R4年からは「交際問題」で計上している。

自殺者数の推移

- 全世代で見ると、R4年をピークにR5、R6年と減少しているが、若年層（20歳未満・20歳～29歳）については、高い水準で推移している。
- 全世代で見ると、女性よりも男性の方が多いが、20歳未満では、R5、R6年において、女性の方が多くなっている。



自殺の原因動機（大分類）

- 全世代では健康問題が最も多く、次いで経済・生活問題、家庭問題の順となっている。経年で見ると、経済問題が増加傾向である。
- 20歳未満では、R1～3年（合計）は、学校問題、健康問題、家庭問題の順に多く、R4～6年（合計）は健康問題、学校問題、家庭問題の順となっている。経年で見ると、健康問題及び学校問題が増加傾向である。
- 20～29歳では、R1～3年（合計）・R4～6年（合計）ともに、健康問題が最も多く、次いで経済・生活問題、勤務問題の順となっている。経年で見ると、健康問題が増加傾向である。

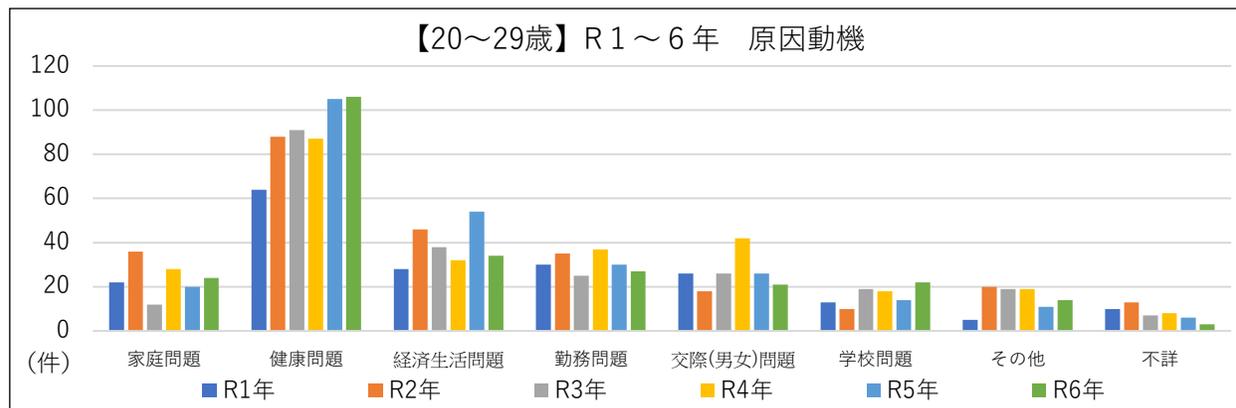
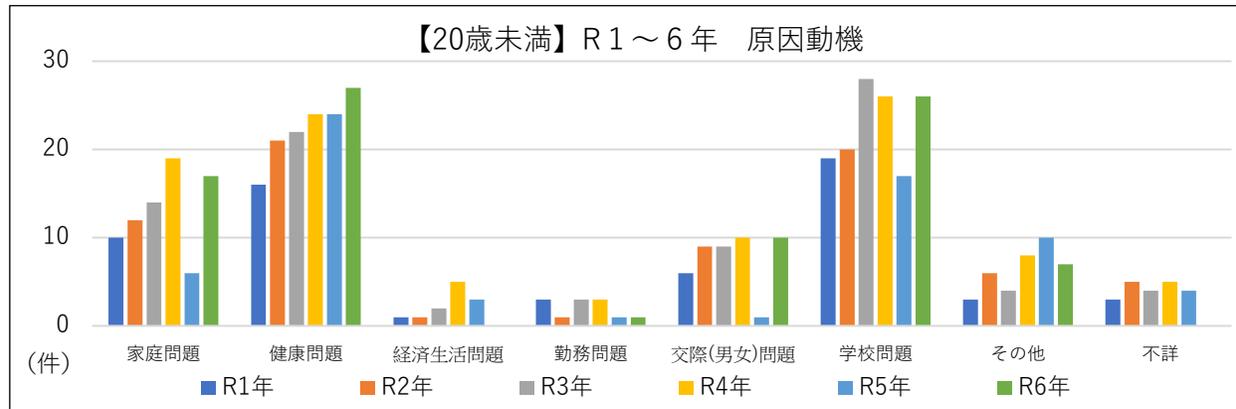
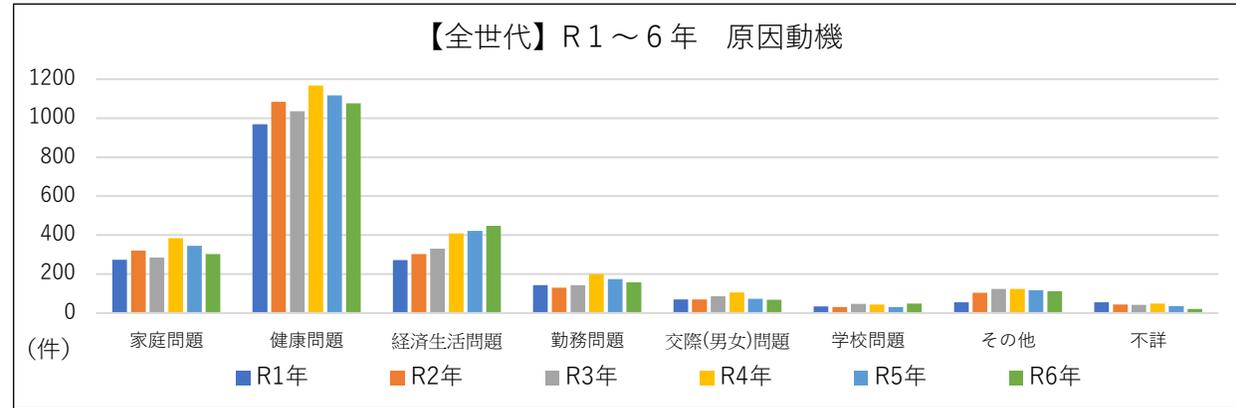
原因動機（R1～3年（合計））

(件)

原因動機（R4～6年（合計））

(件)

	20歳未満	20～29歳	全世代		20歳未満	20～29歳	全世代
家庭問題	36	70	878	家庭問題	42	72	1030
健康問題	59	243	3088	健康問題	75	298	3361
経済・生活問題	4	112	905	経済・生活問題	8	120	1277
勤務問題	7	90	413	勤務問題	5	94	530
男女問題	24	70	224	交際問題	21	89	245
学校問題	67	42	111	学校問題	69	54	123
その他	13	44	281	その他	25	44	351
不詳	12	30	140	不詳	9	17	104



自殺の原因動機（詳細） ① 健康問題

① 健康問題

- 全世代で見ると、うつ病の悩み・影響が最も多く、次いで身体の病気の悩み（R4～6年（合計）では、その他の身体の病気の悩み）となっている。
- 若年層（20歳未満、20～29歳）では、うつ病の悩み・影響及びその他の精神疾患の悩みが多くなっている。

(件)

	R1～3年（合計）			R4～6年（合計）			
	20歳未満	20～29歳	全世代	20歳未満	20～29歳	全世代	
病気の悩み（身体の病気）	4	14	900	病気の悩み（悪性新生物）		3	201
				病気の悩み（てんかん）		4	33
				病気の悩み（その他の身体の病気）	4	15	695
病気の悩み・影響（うつ病）	19	107	1,230	病気の悩み・影響（うつ病）	25	126	1,156
病気の悩み・影響（統合失調症）	4	31	284	病気の悩み・影響（統合失調症）	5	33	310
病気の悩み・影響（アルコール依存症）	0	4	70	病気の悩み・影響（アルコール依存症）	0	6	104
病気の悩み・影響（薬物乱用）		3	19	病気の悩み・影響（薬物乱用）		3	33
				病気の悩み・影響（摂食障害）		3	19
病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	20	70	409	病気の悩み・影響（その他の精神疾患）	32	87	492
身体障害の悩み	3		88	身体障害の悩み		6	142
				認知機能低下の悩み	0		81
その他	8	13	88	その他	3	11	95

※各年代において、最も多い原因動機の欄をオレンジ、次いで多い原因動機の欄を黄色で塗りつぶし。

※個々の自殺者の識別を防ぐとともに秘密を保護するため、集計表における自殺者数が1又は2の場合秘匿する。また自殺者数が3以上であっても、当該欄の数値を表示することによって、秘匿された欄が明らかになるおそれがある場合には、当該欄も秘匿する。秘匿項目については斜線で示す。

自殺の原因動機（詳細）

② 家庭問題

② 家庭問題

- 全世代で見ると、R 1～3年（合計）は、夫婦関係の不和が最も多く、次いで家族の将来悲観となっており、R 4～6年（合計）は、夫婦関係の不和（その他）が最も多く、次いで家族の死亡となっている。
- 20歳未満では、親子関係の不和が最も多く、次いで家族からのしつけ・叱責となっている。
- 20～29歳では、R 1～3年（合計）は、親子関係の不和が最も多く、次いで夫婦関係の不和となっている。R 4～6年（合計）は、親子関係の不和が最も多く、次いで家族の将来悲観となっている。

	R1～3年（合計）			R4～6年（合計）			
	20歳未満	20～29歳	全世代	20歳未満	20～29歳	全世代	
親子関係の不和	11	20	126	親子関係の不和	15	18	139
夫婦関係の不和	0	9	210	夫婦関係の不和（DV）	0		26
				夫婦関係の不和（不倫・浮気）	0	3	36
				夫婦関係の不和（その他の原因）	0	10	169
その他家族関係の不和	6	7	66	その他家族関係の不和	5	7	89
家族の死亡		6	123	家族の死亡	0	5	157
家族の将来悲観		7	139	家族の将来悲観		12	133
家族からのしつけ・叱責	8	5	27	家族からのしつけ・叱責	12	6	30
子育ての悩み	0	8	41	子育ての悩み	0	4	54
被虐待	0			家族・同居人からの身体的虐待	0	0	0
				家族・同居人からの心理的虐待	0	0	
				家族・同居人からの性的虐待	0	0	
				家族・同居人からのネグレクト	0	0	0
介護看護・疲れ	0		61	介護・看病疲れ	0	0	99
その他	8	6	84	その他	8	6	96

※各年代において、最も多い原因動機の欄をオレンジ、次いで多い原因動機の欄を黄色で塗りつぶし。

※個々の自殺者の識別を防ぐとともに秘密を保護するため、集計表における自殺者数が1又は2の場合秘匿する。また自殺者数が3以上であっても、当該欄の数値を表示することによって、秘匿された欄が明らかになるおそれがある場合には、当該欄も秘匿する。秘匿項目については斜線で示す。

自殺の原因動機（詳細）

③ 経済・生活問題

③ 経済・生活問題

- 全世代、20～29歳ともに、生活苦が最も多く、次いで負債（その他）となっている。

(件)

	R 1～3年（合計）		R 4～6年（合計）		
	20～29歳	全世代	20～29歳	全世代	
倒産	0	3	0	5	
事業不振		78		142	
失業	6	81	10	86	
就職失敗	15	39	18	59	
生活苦	31	347	34	462	
負債（多重債務）	21	121	11	148	
負債（連帯保証債務）	0	3	0	4	
負債（その他）	27	165	22	182	
借金の取り立て苦	0	8	0	13	
			奨学金の返済苦	0	0
自殺による保険金支給	0	5	自殺による保険金支給	0	9
その他	10	55	その他	11	76

※各年代において、最も多い原因動機の欄をオレンジ、次いで多い原因動機の欄を黄色で塗りつぶし。

※個々の自殺者の識別を防ぐとともに秘密を保護するため、集計表における自殺者数が1又は2の場合秘匿する。また自殺者数が3以上であっても、当該欄の数値を表示することによって、秘匿された欄が明らかになるおそれがある場合には、当該欄も秘匿する。秘匿項目については斜線で示す。

自殺の原因動機（詳細）

④ 勤務問題

④ 勤務問題

- 全世代で見ると、仕事疲れ（R4～6年（合計）では、仕事疲れ（その他））が最も多く、次いで職場の人間関係（R4～6年（合計）では、職場の人間関係（その他））となっている。
- 20～29歳では、職場の人間関係（R4～6年（合計）では、職場の人間関係（その他））と仕事疲れ（R4～6年（合計）では、仕事疲れ（その他））が多くなっている。

（件）

	R1～3年（合計）		R4～6年（合計）		
	20～29歳	全世代	20～29歳	全世代	
職場の人間関係	28	122	職場の人間関係（上司とのトラブル）	8	48
			職場の人間関係（その他）	18	98
職場環境の変化	8	38	職場環境の変化（役割・地位の変化等）	6	52
			職場環境の変化（その他）	8	39
仕事疲れ	27	125	仕事疲れ（長時間労働）	10	30
			仕事疲れ（その他）	17	115
仕事の失敗	11	61	仕事の失敗	11	58
			解雇・雇い止め	3	14
			取引先とのトラブル		12
			過重なノルマ・ノルマの不達成	0	4
			性別による差別	0	0
その他	16	67	勤務問題その他	12	60

※各年代において、最も多い原因動機の欄をオレンジ、次いで多い原因動機の欄を黄色で塗りつぶし。

※個々の自殺者の識別を防ぐとともに秘密を保護するため、集計表における自殺者数が1又は2の場合秘匿する。また自殺者数が3以上であっても、当該欄の数値を表示することによって、秘匿された欄が明らかになるおそれがある場合には、当該欄も秘匿する。秘匿項目については斜線で示す。

⑤ 学校問題

- いずれの世代も、学業不振と進路に関する悩みが多くなっている。

(件)

R1~3年(合計)				R4~6年(合計)			
	20歳未満	20~29歳	全世代		20歳未満	20~29歳	全世代
入試に関する悩み	9		10	入試に関する悩み	12		14
その他進路に関する悩み	18	15	33	進路に関する悩み	15	20	35
学業不振	23	20	44	学業不振	20	18	38
教師との人間関係				教師との人間関係			3
いじめ		0		いじめ			
その他学友との不和	5	4	9	学友との不和	13	5	18
				性別による差別	0	0	0
その他	9		11	その他	6	7	13

※各年代において、最も多い原因動機の欄をオレンジ、次いで多い原因動機の欄を黄色で塗りつぶし。

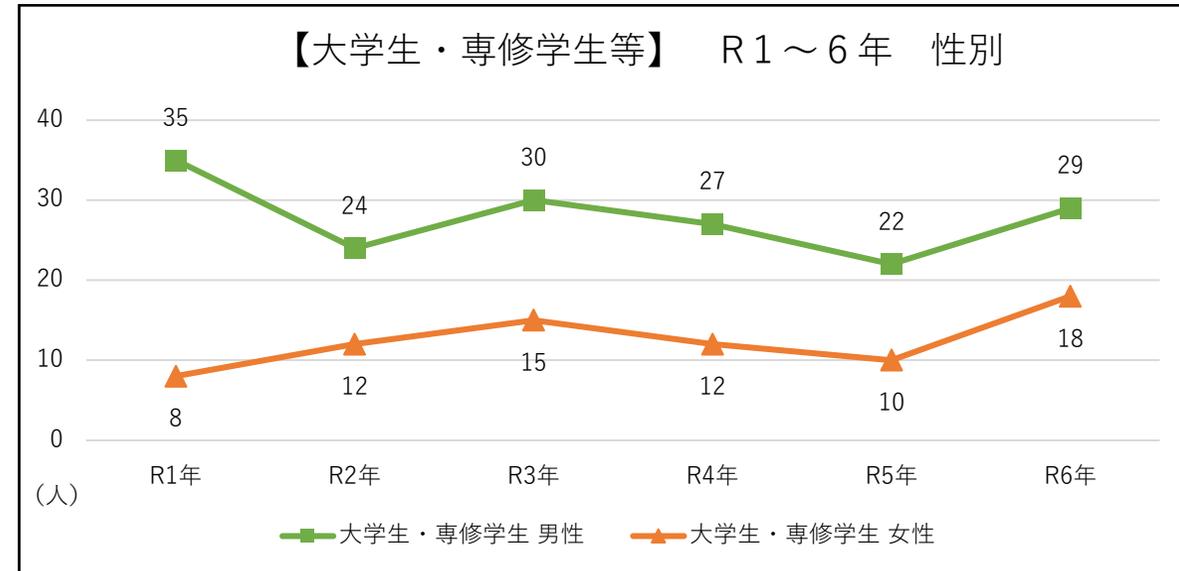
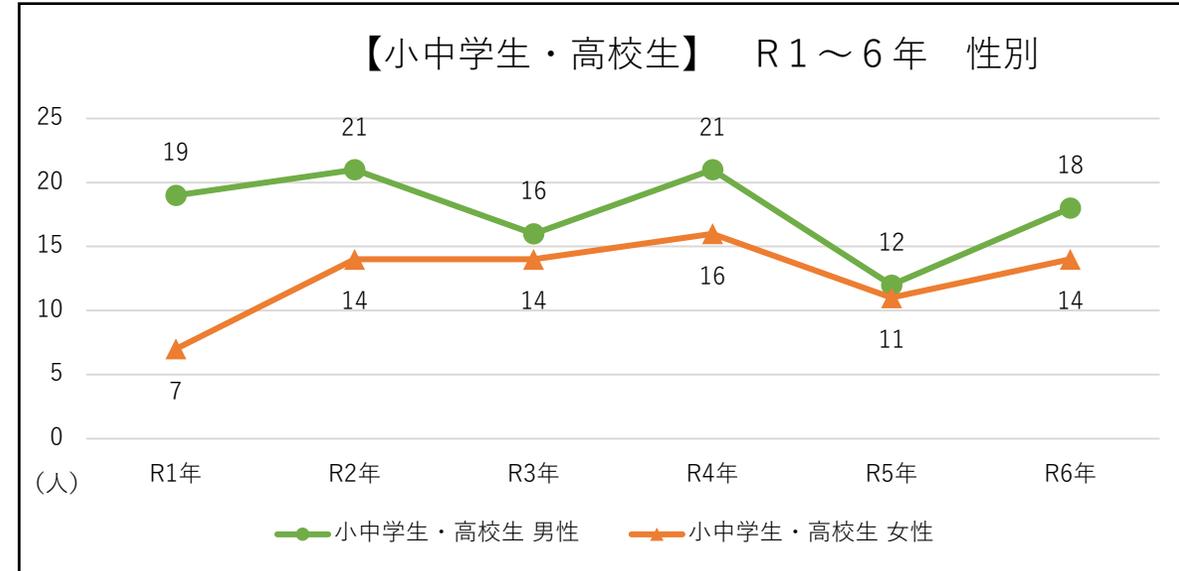
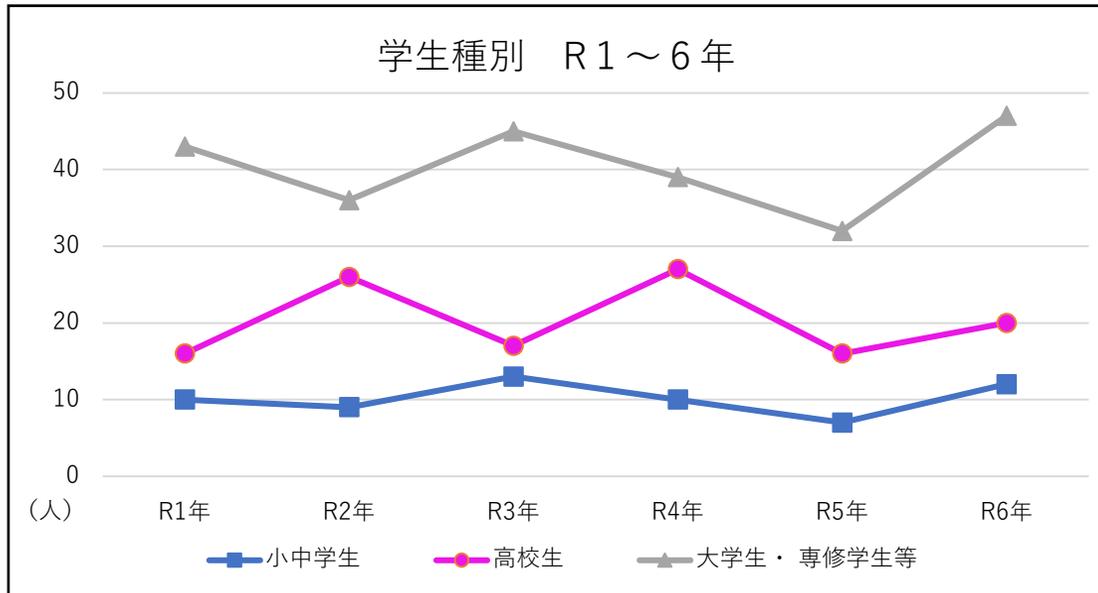
※個々の自殺者の識別を防ぐとともに秘密を保護するため、集計表における自殺者数が1又は2の場合秘匿する。また自殺者数が3以上であっても、当該欄の数値を表示することによって、秘匿された欄が明らかになるおそれがある場合には、当該欄も秘匿する。秘匿項目については斜線で示す。

学生・生徒等の状況

① 自殺者数の推移

- 学生・生徒等の自殺者数は、全体としては横ばいで推移している。大学生・専修学生等は、R5年に比べてR6年が大きく増加。
- 性別で見ると男性の割合が高いが、大学生・専修学生等に比べて小中学生・高校生では、性別間の差が縮まっている。(人)

	小中学生	高校生	大学生・ 専修学生等	合計
R1年	10	16	43	69
R2年	9	26	36	71
R3年	13	17	45	75
R4年	10	27	39	76
R5年	7	16	32	55
R6年	12	20	47	79



学生・生徒等の状況

② 令和6年の状況

- 学生・生徒等の状況を原因動機別に見ると、学校問題が最も多く、次いで健康問題であった。
- 大学生・専修学生等について、男性では学校問題が最も多く、女性では健康問題が最も多かった。
- 小中学生・高校生では、大学生・専修学生等に比べて、家庭問題の割合が高かった。

【R6年 性別・学生種別 自殺者数】 (人)

	小中学生	高校生	大学生・ 専修学生等
男性	6	12	29
女性	6	8	18

【R6年 原因動機別 自殺者数】 ※原因動機不詳を除く数を計上 (件)

	家庭問題	健康問題	経済・ 生活問題	勤務問題	交際問題	学校問題	その他
小中学生・ 高校生	10	12	0	0	4	19	3
大学生・ 専修学生等	7	18	8	0	7	28	5
全世代	302	1076	447	157	67	48	112

